



全国各地の元気な農村、農業に活気と勢いを呼び込む取組を紹介する「わっしょい!! 日本農業」。今回は北海道にスポットをあてて、寒さも雪も吹き飛ばす大きな大きなかけ声をお届けする（参考：農林水産省平成23年度「食と地域の『絆』づくり」選定事例集）。

若者と農村を繋ぐ！ きたベジプロジェクト

(合) Neeth (ニーズ)
北海道札幌市

“きたベジ”は「若者が気軽に農家に遊びにいける機会を創る団体」。Neethはこのプロジェクトの事務局を務めている合資会社で、札幌在住の“三姉妹”が運営している。彼女らはいずれも非農家出身だが、HPには、それぞれ「田舎・自然が好き」「農家・アウトドアが好き」「料理・美容が好き」とある。農業にまつわる食・健康・環境・自然・観光などの分野が、現代女性の興味と重なっていることも窺える。

そんな“きたベジプロジェクト”が行うのは農業体験を望む若者たちと受け入れ農家のマッチング。近隣の有機栽培農家や、札幌のNPO認証取得予定団体「オオドリ大学」の部活動「ドリ農部」、喫茶店経営の野菜ソムリエらと協力し、23年8月の発足からすでに300人の若者が農業体験に参加した。農業にちょっと興味がある若者や、世間に訴えたい事がある農家は多いのだ。

8月の活動開始後すぐ、早速行われた一泊二日の“合宿”では、道央・岩見沢の有機栽培農家「ピオファームなかむら」を約20名が訪問。有機栽培について、良い面、悪い面、苦労や工夫などの

話を農家から聞き、甘いと評判のトマト、茄子、とうもろこしの収穫体験、収穫したトマトを使った商品開発体験などを行った。中には東京から参加したという女性の姿もあった。その後もこだわり米の収穫体験、桜島大根の収穫などを開催した。一貫しているのは、ただ穫って食べて終わりではなく、講師を招き、6次産業化、農工商連携、農業経営、有機農業、食育などのトピックを取り上げている点。

グリーンツーリズムを娯楽として通過するのも良い。難しい事を考えず羽を伸ばすのも気持ちが良い。しかし「若者」の中には深く知りたい思いも生まれるだろう。その時すぐに答えや話し合いの場があるのは素晴らしいことだ。こうした草の根的活動、局地的交流が、農業全体への意識やイメージを変える、大きなうねりを作り出すのかもしれない。



町ぐるみで作る ではのおもてなし

黒松内町特産物手づくり加工センター
北海道黒松内町

南西部の後志管内にある黒松内町は、最大規模のブナ原生林をもつ日本最北端の地。昭和3年に天然記念物に指定されたブナの原生林とともに、酪農と福祉の町として歩みを進めてきた。